

# 金沢医科大学 氷見市民病院



氷見海岸より新雪の立山連峰を望む

## 目次

### 公設民営化への経過

「公設公営」から指定管理者制度による「公設民営」へ  
金沢医科大学氷見市民病院開設準備室の開設

### 今後の病院運営について

#### 氷見市民病院の公設民営化について

氷見市長 堂故 茂

#### 金沢医科大学氷見市民病院のスタートに向けてのご協力の御願い

開設準備室代表・金沢医科大学副理事長 竹越 襄

## 公設民営化への経過

### 「公設公営」から指定管理者制度による「公設民営」へ

厚生労働省の厳しい医療費抑制政策によって、医療施設の経営が全国的に困窮し、とくに放漫経営の体質から抜けきらずに運営されている地方自治体病院の経営破たん状況が報道されていることは、すでにご存知のとおりです。

氷見市民病院もその例外ではなく、年間数億円の支出超過をかかえる「慢性赤字経営」を余儀なくされており、市の財政に対して負担が大きくなるばかりで、いずれは破綻を迎えるという状況です。

氷見市の執行部は平成19年4月、県をはじめ中央の関係分野の有識者による「氷見市民病院改革委員会」を立ち上げて改善策について諮問し、お役所体質の甘い体制を抜本的に改革し、指定管理者制度を導入すべしとの答申を得るにいたり、市議会、住民説明会などを経て、民間への経営委託を実施することになりました。

その後、経営委託先の公募、審査を経て学校法人金沢医科大学に経営委託をするという市議会の議決を経て、平成19年11月22日、堂故茂氷見市長と、学校法人金沢医科大学小田島肅夫理事長による調印式が行われました。



小田島理事長からは「医師不足による医療格差を無くし、地域医療を守っていくことが、医科大学の使命であり、大学間の連携・協力の下に、金沢医科大学の責任において、氷見の地域医療を守っていく」との強い決意が表明されました。

### 金沢医科大学氷見市民病院開設準備室の開設

平成20年4月からの経営委託の開始に向けて、平成19年11月30日氷見市民病院内に「金沢医科大学氷見市民病院開設準備室」が開設されました。開設準備室には、竹越襄副理事長、太田修理事のもと、この開設室を拠点として、平成20年4月からの経営委託に円滑に移行できるよう、次の事務担当者が平成19年12月1日付で発令され、準備にあたっております。

- 木村 晴夫（開設準備室長）
- 坂野 邦雄（経理・用度担当）
- 米田 正明（管理担当）
- 大戸 和雄（人事担当）
- 山野 清一（医事・情報担当）



## 今後の病院運営について

今後の病院運営の目標は従来の方針と変わりありませんが、下記のような点に留意して改革を進めます。

### ①氷見市民の需要に応じた質の高い、安全な、信頼される医療を提供します

市と指定管理者である金沢医科大学とが力を合わせて市民の医療ニーズに応えることができる医療提供体制を構築していきます。

### ②医療体制の選択と集中による再編

現有病床数の削減、地域に不足する診療科の整備などを行います。

### ③新病院の建設

2年後に新病院を建築整備する予定であり、安全で魅力ある病院を目指します。

### ④医療機器の整備は計画的に行う

建設費と合わせ過度な投資とならないよう注意します。

### ⑤住民の高齢化に配慮した施設整備を行う

高齢者の医療サービスの充実については、市及び病院側において基本的な方向性を計画して進めます。

## 1) 市民病院としての機能と診療体制

- 病床規模  
250床（急性期・亜急性期・回復期）
- 診療科  
当面は、現20診療科を継承。泌尿器科、耳鼻咽喉科等の常勤化
- 政策的医療  
365日24時間救急医療  
小児救急⇒地元医師会、高岡医療圏との連携で対応  
産科医療の充実  
へき地巡回診療
- 地域連携・地域開放型病院  
地域医療・福祉連携の推進の中心となるオープンシステムの導入（地域の開業医を登録医として連携）
- 災害時対応
- 集学的医療センター構想  
がんセンター  
ハートセンター  
生活習慣病センター  
健康管理センター

## 2) 教育病院としての位置付けと役割

- 医師は、金沢医科大学の教育職員（教授、准教授、講師等）
- 教育・研修（医学部学生、卒後臨床研修、看護学生など）
- 臨床研究（学会活動、臨床研究の推奨）
- 高度医療の開発・導入
- 市民公開講座の開催

## 3) 医師派遣にあたっての地域医療を支える大学間連携

- 金沢医大が経営を行い、富山大、金沢大、金沢医大が協議、協力のもとに行います。
- 協議会の構成
  - ・氷見市民病院経営責任者、病院長
  - ・協力大学の病院長、派遣医局の責任者
  - ・氷見市及び富山県の医療行政責任者
- 協議する事項
  - ・診療科別、専門領域別医師派遣の調整
  - ・派遣医師の身分と処遇
  - ・医師のキャリア形成支援
- その他
  - ・自治医大卒業医師のローテーション

## 4) 看護スタッフの確保と処遇

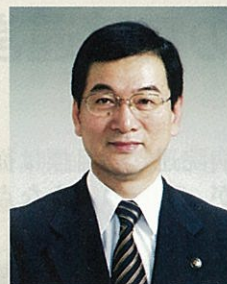
- 地方公務員から民間人へ。処遇、福利厚生、本学病院との人事交流、研修等の魅力と環境を整え、地域住民へのサービスに専念できる職場として整備
  - ・既在職者への働きかけ
  - ・若手看護師の確保
  - ・潜在看護師の再就業支援（研修制度）
- 氷見市奨学金制度の拡大
- 本学看護学部に「氷見枠」を設ける
- 将来的には看護師養成機関の設置を検討

## 5) 地域のニーズに応えるための専門外来開設、診療科横断的な外来診療

循環器、消化器領域においてはセンターを設置し、消化器内科と外科、循環器科と心臓血管外科のように内科系と外科系診療科の連携医療、がん治療の横断的な連携医療の展開を計画

## 氷見市民病院の公設民営化について

氷見市長 堂故 茂



氷見市では、病院の経営改革に取り組んできましたが、大変厳しい医療情勢の中で、今後とも本市の医療を守っていくためには、公設民営・指定管理者制度の導入が最良の方策であると判断し、全国に広く指定管理者の公募を行いました。

選定にあたりましては、富山・金沢大学附属病院長をはじめ、市民代表等による指定管理者選定委員会で厳正に審査をいただきました。

その結果、「学校法人金沢医科大学」を指定管理者候補者として選定し、このほど市議会で、同大学を指定管理者に指定し、併せて病院名称を「金沢医科大学氷見市民病院」とすること、その他運営上の必要事項の議決をいたしました。

金沢医科大学は、医師・看護師の養成機関として優れた医学教育・研究に取り組み、また同大学病院は、高度医療、先進医療の先駆的病院として日本海側では最初に「特定機能病院」の指定を受けられ、地域医療の中核となる高機能病院としての活躍はもとより、近隣市町村からの信頼が非常に高く、また今後の益々の発展にも大きな期待をいたしております。

自治体病院の経営改革のため、全国にも例を見ない医科大学が指定管理者になっていただいたことに、氷見市民を代表して深く感謝を申し上げますとともに、小田島理事長様をはじめ、同大学職員の地域医療に対する熱い思いに接しまして、改めて金沢医科大学は、本市の地域医療を担っていただける、最もふさわしいパートナーであると確信いたしました。

今後は、指定管理者金沢医科大学と氷見市が力を合わせて、住民の医療ニーズにしっかりと応えることができる医療提供体制の構築を目指すとともに、安全で魅力ある新病院の建設準備を進めていきたいと考えております。

金沢医科大学並びに職員の皆様の絶大なるご支援とご協力をお願い申し上げます。

## 金沢医科大学氷見市民病院の スタートに向けてのご協力の御願い



開設準備室代表  
金沢医科大学副理事長 竹越 襄

この度金沢医科大学が氷見市民病院の指定管理者として氷見市より指定を受けました。

平成20年4月より正式に指定管理者として氷見市民のために病院経営を開始する事になったわけです。その為には医師確保を含めた多くの問題が山積しておりますが何とか皆様のご協力を得て順調な滑り出しをしたいと思います。

現在、氷見市民病院内に「金沢医科大学氷見市民病院開設準備室」が設置され、本学から木村晴夫準備室長の元に4人の事務担当の精鋭が仕事を開始しております。

平成20年4月からの病院経営方針や構想に関しては前ページに記載してありますが、特に力を入れなければならないのは医師および看護師の確保です。この事の成否が新体制の病院の運営・経営に大きな影響を与えます。繰り返しになりますが、この件に関しましては大学の教職員特に臨床各科の絶大なるご協力を御願いしたいと思っております。現今の新研修医制度により新入医局員の確保が困難で医局運営に頭を痛めておられることは重々承知しておりますが、大学の本院と同じ気持ちでご支援頂きたく重ねて御願い申し上げます。

言うまでもなく、この構想が本学の将来を占う大事な事業ですので、職員の皆様方と一丸となって成功に向けて頑張りたいと思っております。皆様には多大のご協力を御願い致します。